

- 輻射熱を測定可能な黒球付き
- JIS B 7922:2023 クラス 2 適合 (下記測定範囲にて)
WBGT 指数: 20.0 ~ 40.0°C / 温度 (気温): 20.0 ~ 30.0°C / 黒球温度: 20.0 ~ 40.0°C
湿度: 30.0 ~ 90.0%rh / 風速: 0.3 ~ 3.0m/s
- 熱中症の注意レベルをバーグラフ表示
バーグラフは 2 つの指針から選択可能
 - ・「熱中症予防運動指針」
 - ・「日常生活における熱中症予防指針」
- 設定した熱中症注意レベルに達するとブザー音や LED 点滅でお知らせ
- 測定環境に合わせて日射あり / 日射なし測定の切り替えが可能
- 持ち運びや設置に便利な各種アクセサリを標準付属

測定範囲	暑さ指数 (WBGT): 0.0 ~ 50.0°C 温度: 0.0 ~ 50.0°C 湿度: 10.0 ~ 95.0%rh 黒球温度 (表示なし): 0.0 ~ 60.0°C
測定精度	暑さ指数 (WBGT): ±2.0°C (20.0 ~ 40.0°C) ±3.0°C (左記以外) 温度: ±0.6°C (20.0 ~ 40.0°C) ±1.0°C (左記以外) 湿度: ±5.0%rh (30 ~ 90%rh, at 20 ~ 30°C) ±7.0%rh (左記以外) 黒球温度 (表示なし): ±0.6°C (20.0 ~ 40.0°C) ±1.0°C (左記以外)
電源	コイン形リチウム電池 (CR2032) 2 個
寸法	約 (W)60×(H)122×(D)25mm ※(D)は黒球部除く 黒球: 約φ40mm
質量	約 70g (電池含む)
オプション	No.8310-90 三脚 ZF-400WSH 価格 7,800 円 (税別)

※JCSS 校正は温度と湿度のみ対応です



詳細はこちら

■ 熱中症注意レベルのバーグラフ表示

測定した暑さ指数 (WBGT) より、熱中症の注意レベルをバーグラフで表示します。
バーグラフは、「熱中症予防運動指針」または「日常生活における熱中症予防指針」の 2 つより選択できます。

※表示例

「日常生活における熱中症予防指針」の「嚴重警戒」であることを表します。

「熱中症予防運動指針」

○公益財団法人日本スポーツ協会「熱中症予防ガイドブック」より抜粋

WBGT 指数	項目	具体例
31°C 以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
28~31°C	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり水分・塩分を補給する。暑さに弱い人(※)は運動を軽減または中止。
25~28°C	警戒 (積極的に休息)	熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21~25°C	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21°C 未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※表内の 28~31°C は 28°C 以上 31°C 未満の意味

※暑さに弱い人: 体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など



「日常生活における熱中症予防指針」

○日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」より抜粋

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C 以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28~31°C)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C)	強い生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。
注意 (25°C 未満)		一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※表内の 28~31°C は 28°C 以上 31°C 未満の意味

■ 持ち運び、設置イメージ



▲ カラビナ使用時



▲ ベルト装着時



三脚使用時▶
(三脚は別売り)

■ 側面、背面

